

7月13日(月)

教 え は 実 践 可 能 か

聖書朗読 マタイの福音書 5:38~48

あなたがたは、世界の光です。

マタイ 5:14

二千年にわたり、キリスト教徒たちはこう自問してきました。果たして《山上の垂訓》を本当に実践できる者がいるだろうか。右の頬を打つ者に左の頬も向け、敵を愛し、自分を傷つけた人々のために祈ることは本当に可能なのか。古代の評論家たちも、これらの教えが実践できるものなのだろうかと疑問に思っていました。

では、そもそも私たちは試みるべきなのでしょうか。神学者ダラス・ウィラード*はこう賢明に語っています。「恵みは努力に反対するものではなく、獲得することに反対するものです。」(*編注:キリスト教の精神的形成に関する著作でも知られるアメリカの哲学者。1935-2013)イエス様に従うということは、完璧を目指すことでも、神様の愛を勝ち取ることでもありません。それは、私たちを変えてくださる神様の御霊と協力し、キリストに似た者へと成長していくことなのです。

恨みよりも赦しを、欺きよりも誠実さを、報復よりも親切を選ぶたびに、私たちは世界の光として輝くのです。私たちが踏み出す一步一步は、たとえどんなに小さくても、その場その場で神様の御国を体現するものなのです。

それは容易なことではありません。しかし、神様の恵みによって、私たちはイエス様のみ言葉によって歩み、イエス様の光を私たちを通して輝かせることができるのです。

讃美歌 132 めぐみにかがやき あいにかおる

祈 り 主よ、御国での私たちの在り方に対するあなた様の御心は、謙虚さを求められるもので、私にとって大きな挑戦でもあります。私たちが一步一步、あなた様に従うことができるよう、御恵みと希望で私たちを満たしてください。イエス様の御名によって。アーメン。

カリフォルニア州 オーク・パーク / アンディ・ウォール

今日の力

2026年7月13日 ~ 7月19日

翻訳 藤岡 伸子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は新改訳聖書第三版を使用しています
※翻訳・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御 茶 の 水 キ リ ス ト の 教 会

7月14日(火)

人 生 の 優 先 順 位

聖書朗読 マタイの福音書 6:25～34

そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。
マタイ 6:31

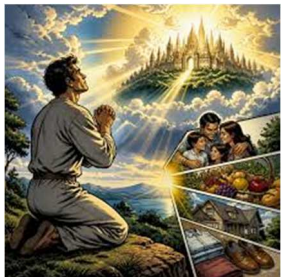
神様に信頼すること。それは素晴らしいことだと思いませんか。しかし、神様に信頼するということは、神の国と神の義とをまず第一に求めなければならないことを意味します。つまり、それは優先順位の問題です。あなたは神様を最優先にしていますか。神様のために時間を取っていますか。神様とじっくり心を通わせるような交わりをしたのは、いつ以来でしょうか。

私たちは、伴侶や親、子供など、自分にとって大切な人たちと過ごすため、また、自分にとって重要だと思う活動のために時間を作ります。そのことを踏まえて、自問してみてください。自分は神様と過ごす時間を作っているだろうか。イエス様に従う者として、私たちは皆、優先順位を明確にする必要があります。

私たちクリスチャンは、快適さ、安定、お金、あるいは流行を最優先にするようなまだ神を知らない人々とは異なる存在でなければなりません。イエス様の弟子たちは、神の国と神の義とをまず第一に求めます。この「求める」という言葉は、継続する義務であり、「求め続ける」ことを意味します。すなわち、私たちは日曜日だけでなく、常に神と神の義を求め続けなければなりません。

讃美歌 274 世人こぞりて 主をばなみし

祈 り 主よ、私が常にあなた様の義を求め、人生においてあなた様に仕えることを最優先とし続けられますように。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。



7月15日(水)

真 理 の お 方

聖書朗読 マタイの福音書 7:13～20

愚かな者が思慮もないのに、知恵を買おうとして、手に代金を持っている。これはいったいどうしたことか。
箴言 17:16

神様は私たちを御自身の子供として選んでくださいました。それは、あらゆる特権を備えた王の子供としての立場です。神様は私たちに御自身を知ることを許してくださっています。私たちは狭い門から入り、細い道を進んでおり、イエス・キリストのような実を結ぶために、聖霊が私たちの内に宿っています。私たちは変えられています。神様は、私たちが神様が求められているような者になれるよう、一人ひとりの内に力を注いでくださっており、私たちに祝福を惜しみなく注ぎたいと切に願っておられます。

求め、捜し、たたき、主の道に入り、実を結ぶことは、私たちの責任です。私たちがここで示すべきは、私たち自身の栄光ではなく、神様の栄光です。細い道が、永遠のいのちに向かうだけでなく、祝福された地上の歩みへと導くものなら、狭い門をくぐらない理由があるでしょうか。道であり、真理であり、いのちであるイエス様に、私たちの目を向け続けましょう。

キリスト教はある悩みには効くが、他の悩みには効かないような薬ではない。キリスト教は幻想(イリュージョン)ではなく、真理そのものなのだ

—ウィリアム・テンブル*

(*編注:イングランドの聖公会司祭。1881-1944)

讃美歌 304 真実なるみかみを たのめるもののみ

祈 り お父様。今日、私をあなた様の真理に導いてください。イエス様のお名前によって、アーメン。

テキサス州 ラボック / シェリー・リームス

7月16日(木)

あらゆる機会

聖書朗読 マタイの福音書 26:6～13

まことに、あなたがたに告げます。世界中のどこでも、この福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。」

マタイ 26:13

神様は、一見取るに足りない善行よりも、壮大で高邁な行いをより好意的に見ておられるのでしょうか。神様は、私たちと同じ基準で重要性を測っておられるのでしょうか。神様ご自身が、壮大で立派なものだけでなく、ささやかで些細なものにも価値を置かれていることを、私たちに思い出させてくださいます。やもめの献金、迷った一匹の羊、失われた一枚の銀貨、一杯の冷たい水、身にまとう物も無い人に施す衣服、そしてツアラアトをいやされた感謝を伝えに、たった一人戻ってきた人のことを考えてみてください。

マタイ26章に登場する女性は、高価な香油の入った石膏のつぼを、へりくだってイエス様の頭に注ぎました。イエス様は、この行いは決して忘れられないと言われました。彼女の行いは大した事ではなかったかもしれませんが、真心こもった誠実なものでした。私たちが聖書でこの箇所を読むたびに、神様はその重要性を私たちに思い出させてくださいます。

神様は私たちの心を求めておられ、また、行いも求めておられます。神様は、私たちがいるべき場所に、必要な時に、私たちを置き、御自身の目的を果たすために必要なものを与えてくださいます。

ただ壮大なことをするのを待つのではなく、あらゆる機会を探し求めましょう。

讃美歌 236 地の上にまことの さとりはひらけて

祈り 親愛なる神様、私たちに柔軟な心と、あなた様が日々私たちの前に置いてくださる機会を見極める目をお与えください。あなた様の愛が他の人々にも注がれるよう、どうか私たちを用いてください。イエス様のかぐわしい御名によって。アーメン。

テキサス州 プレイノ / リンディ・ベル

7月17日(金)

驚くべき愛の広さ

聖書朗読 ルカの福音書 6:27～36

しかし私たちがまだ罪びとであったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

ローマ 5:8

イエス様はこう言われました。『あなたの敵を愛しなさい。あなたを憎む者に善を行いなさい。あなたをのろう者を祝福しなさい。あなたを侮辱する者のために祈りなさい。』(ルカ 6:27b～28)これらは画期的な教えであり、世の常識を根底から覆^{くつがえ}すものです。イエス様は、家族や友人を愛するように、ただ敵を愛しなさいと言っておられるのではなく、アガペーの愛、すなわち積極的な善意をもって敵を愛しなさいと教えておられるのです。

イエス様は、不当な告発を受け、鞭打たれ、頭を殴られ、十字架に釘付けにされ、嘲笑され、侮辱されましたが、それでも、報復することなく、アガペーの愛を示されました。報復の代わりに、こう祈られました。『父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。』(ルカ 23:34)

私たちが敵に左の頬も向け、一ミリオン行けと強いる者と一緒に二ミリオン行くとき、私たちはこの世の基準を捨て去り、イエス様の模範に従うのです。悪に対して善で報いることによって、敵をイエス・キリストにある兄弟姉妹へと変えることさえできるかもしれません。

讃美歌 86 み神のめぐみは 量り知られず

祈り 天のお父様、あなた様が私たちを愛してくださったように敵を愛することを学ぶのは私たちにとって難しい課題です。私たちには助けが必要ですどうか御霊で私たちを満たし、御自身の似姿へと変えてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

オレゴン州 グレシャム / リチャードN・アディ

7月18日(土)

おいでになるはずのお方、イエス様

聖書朗読 ルカの福音書 7:18～35

シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」
マタイ 16:16

バプテスマのヨハネといえば、ラクダの毛の着物をまとい、イナゴと野蜜を食し、「悔い改めにふさわしい実を結ばなければ、切り倒されて火に投げ込まれる」という説教をしている彼の姿を思い浮かべます。彼は『荒野で叫ぶ者の声』と言われたその人であり(マタイ 3:3)、イエス様を指さして『見よ、世の罪を取り除く神の小羊。』(ヨハネ 1:29)と宣言する大胆な人物として描かれています。疑いを抱く者という印象とバプテスマのヨハネは一致しません。

しかし、ヨハネは獄中で、弟子たちを呼び寄せて、イエス様のもとに送り、『おいでになるはずの方は、あなたですか。』と言わせました。困難な時は、どれほど強い信仰を持った者であっても、しばしば疑いを持つものです。ヨハネはスーパーマンではありません。彼はただの人間であり、彼でさえ疑いの瞬間があったのです。聖書は、信仰がないことと、時折疑うこととを明確に区別しています。

あなたはヨハネの気持ちに共感できますか。疑ったことはありますか。長期にわたる病と闘ったり、家族の問題に悩んだり、不確かな将来を見つめて、「イエス様、おいでになるはずの方はあなたですか。」と問いかけたことはありませんか。そうであれば、ヨハネに自分の身を重ね合わせてみましょう。そのような困難な時期を乗り越えるための答え、それはイエス様がヨハネに与えられた絶対的かつ決定的な答えです。「はい、私がその人です。」

讃美歌 130 よろこべや たたえよや

祈り お父様、私が疑いを抱く時、どうか私を忍耐強く見守ってください。今もなお『おいでになるはずの方』であるイエス様に目を留め続けられるよう助けてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

テキサス州 アマリロ / ベン・メレネス

7月19日(日)

独り占めするな

聖書朗読 ルカの福音書 8:16～21

あかりをつけてから、それを器で隠したり、寝台の下に置いたりする者はありません。燭台の上に置きます。入って来る人々に、その光が見えるためです。
ルカ 8:16

今日のこの読み物の見出しは《独り占めするな》です。まさに私に言われていることだと思います。主について、より多くの知識を得て、それを手放さずになりたいと願わない人がいるのでしょうか。しかし、イエス様は、光をため込んだり隠したりしてはならないとおっしゃっています。光は外に放たれるべきものです。

み言葉を聞くことを通して、私は自分の力だけでは不十分な存在であることを学びました。神様なしでは生きられませんし、神様なしで生きようなどと思いません。聖歌*にあるように、私は助けなしでは人生の重荷を背負いきれません。(*編注:聖歌423 つげよ主に)自分を越えた力が必要です。だからこそ、私は主が共にいてくださることを常に意識しています。弱さを覚える時も、私は恐れません。しかし、真理を確信し、それを他者に伝えることは難しいことです。それには勇気が要ります。

努力や失敗、さらには危険さえも通して、私は分かち合うことができます。あらゆることを通して、私は主のみわざを私の絶え間ない祈りとして捧げたいのです。そして常に熱意を持ち続け、神様の御国における豊かないのちという良い知らせを宣べ伝えることで、出会うすべての人に希望のメッセージを広めたいのです。今日、誰かにイエス様の光を照らしたいと思います。

讃美歌 225 すべてのひとに のべつたえよ

祈り 親愛なる主よ、どうか私があなた様の光をため込んだり隠したりしないよう助けてください。イエス様の御名によって。アーメン。



ミシガン州 テイラー / ジェリー・ブライアン